

# S.F.A.通信 第17号

(和歌山県漁業士連絡協議会報)

平成24年3月

発行：和歌山県漁業士連絡協議会

## S.F.A. (=Senior Fishery Adviser、漁業士)

### ◆漁業士

将来の中核的漁業者として期待される漁業者や、優れた漁業経営を行い指導的役割を果たしている漁業者をそれぞれ「青年漁業士」、「指導漁業士」として和歌山県知事が認定しています。

現在は117名の漁業士が地域漁業の担い手として活躍しています。

### 和歌山県漁業士連絡協議会

会員相互の連絡調整や交流資質向上を目的に、平成元年に発足しました。

年1回の総会その他、他府県との交流会の開催、魚食普及活動、部会での活動などを通じて、お互いの情報交換や親睦を図っています。

## ～漁業士認定～

平成24年2月3日に、アバローム紀の国において、平成23年度和歌山県農業士・グリーンワーカー・漁業士認定式が開催され、以下の4名の方が指導漁業士に認定されました。

谷口 裕美さん (湯浅湾漁協)

柚木 栄造さん (太地町漁協)

本多 卓也さん (紀州日高漁協)

米川 正紀さん (勝浦漁協)



知事、県議会議長とともに記念撮影

(前列左から2人目：谷口さん、後列左端：本多さん)

## ～知事感謝状～

平成23年度和歌山県農業士・グリーンワーカー・漁業士認定式において、指導漁業士として永年にわたりご活躍された石本正信さん（紀州日高漁協）に対し、和歌山県知事から感謝状が贈呈されました。



知事、県議会議長とともに記念撮影  
(後列左端：石本さん)

## ～魚食普及活動～

現在、漁業士連絡協議会では、魚食普及活動に力を入れて取り組んでいます。

平成23年11月17日には、御坊市立塩屋小学校の5年生を対象に紀州日高漁協において校外学習として実施しました。

まず漁業士の案内で塩屋漁港内の施設やまき網漁船を見学しました。間近で見る漁船に子どもたちは大喜びでした。そして、会議室に移動して、漁具や模型を使ってまき網漁業などの話をした後、実際に魚に触れる体験や魚を刺身にさばく様子を見学し、最後にシラス丼をつくって、子どもたちと一緒においしくいただきました。



▲まき網漁船見学（塩屋小学校）



▲まき網漁業の話（塩屋小学校）

平成23年11月30日には、和歌山県立はまゆう支援学校を訪れ、小学部・中学部を対象に、出前授業を行いました。

はじめに漁具を使って船びき網漁業の話をした後、チリメンモンスター探しや魚に触れる体験のほか、シラス丼づくりを行いました。

また、部会でも有田地区部会が有田市立系我小学校（平成23年11月2日）で、まき網部会が和歌山県立はまゆう支援学校（平成24年1月25日）で、それぞれ魚食普及活動を実施し、地元漁業の話に加えて、魚に親しむ体験を行いました。



▲船びき網漁業の話（はまゆう支援学校）



▲有田地区部会（系我小学校）



▲まき網部会（はまゆう支援学校）

## ～わかやま食と健康フェア～

平成23年12月4日に和歌山市のパームシティ和歌山店で開催されたわかやま食と健康フェアへ出展し、漁具等の展示を行いました。ブースでは、漁業士連絡協議会の活動や県内の漁業を紹介するパネルを掲示するとともに、まき網漁業の模型や漁具を展示し、来場者に対して漁業についてPRしました。



## ～瀬戸内海ブロック漁業士研修会～

平成24年2月9日～10日にかけて、福岡県北九州市において瀬戸内海関係9県の漁業士が参加する研修会が開催されました。

初日は、小倉リーセントホテルにおいて、各県から漁業士の活動状況を報告しました。各県とも魚食普及や環境保全など様々な活動を実施しており、活発に意見交換されました。また、瀬戸内海の厳しい環境規制のために海が痩せてきていることを危惧する意見が出され、次回のテーマとして取り上げ検討することとなりました。

2日目は、豊前海のカキ養殖の関係施設を視察しました。恒見カキ加工場で養殖カキの加工・出荷作業を見学した後、獲れたカキを炭火で焼いて食べられるカキ小屋「恒見豊前海一粒かき焼き食い処」の視察を行いました。



## ◆◆◆ 部会情報 ◆◆◆

### ～～まき網部会～～

#### ◆平成24年1月30日～31日視察研修（兵庫県・愛媛県）

平成24年1月30日～31日にかけて「まき網で獲られたアジサバ類の流通戦略を中心とした取組」をテーマに視察を行いました。

1日目は、兵庫県尼崎市にあるヤンマー株式会社尼崎工場を訪問し、推進機関の保守点検方法の習得や最新情報の収集に努めるとともに、組立工程について見学を行い、理解を深めました。

2日目は、愛媛県宇和島市にある宇和島漁業協同組合及び合同会社宇和島プロジェクトを訪問しました。宇和島漁協では、まき網漁業者や漁協参事と情報交換会を持ち、最近の漁況や同組合で取り組まれている蓄養について意見交換を行いました。また、次に訪問した宇和島プロジェクトは、まき網で漁獲されたマアジの販路開拓に取り組んでいる会社であり、現在は水産物の流通・加工について幅広く展開しているとのことでした。事業の説明を受けた後、まき網漁獲物の流通戦略を中心に意見交換を行いました。



# 浜便り ～北から南から～

## 山の小学生、海のくらしを学ぶ ～加太漁協女性部、大活躍～

海草振興局 井川普及指導員

7月25日～26日の2日間、今年も奈良県川上村から川上小学校の子どもたちが加太小学校（和歌山市）にやってきました。この行事は、両校の子どもたちが交流を深めるとともに、山間地域の川上小学校の子どもたちに海のくらしを学んでもらうことを目的としています。その中で、加太漁協女性部は交流会のメインイベントである“加太のさかなの料理体験”の先生役をつとめています。普段、目にすることの少ない、まるまる一匹の魚を前に歓声をあげる子どもたちに、さばき方を指導します。はじめは怖々だった子どもたちも、コツを教わってみるみる上達していきます。さばいた魚は漁師風に味付けして、最後はおいしくいただきました。子どもたちからは、「こんなにおいしいさかなははじめて」、「さかな料理をもっと学びたい」、「これからはもっとさかなを食べるよ」といった声が聞かれました。漁協女性部の活躍で、子どもたちが海のくらしの魅力に存分に気づいてくれたようです。





## われら漁業士



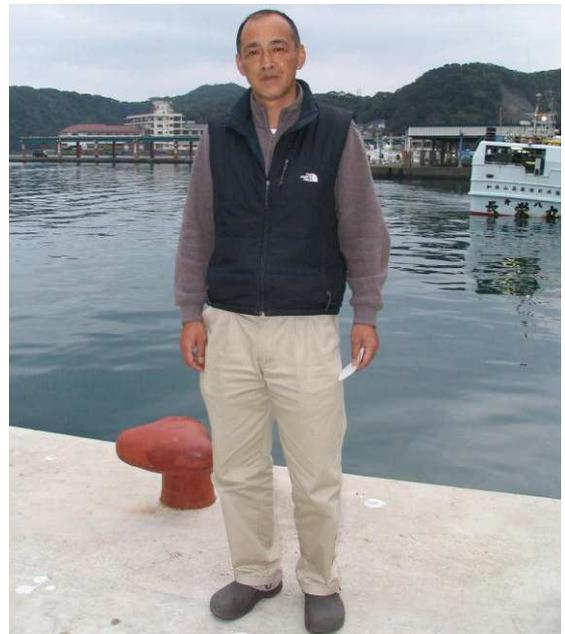
漁師24年目。漁業転換したため、駆け出しです。

勝浦漁業協同組合

指導漁業士 米川正紀

今年2月に、指導漁業士に認定され、漁業士連絡協議会に入会しました米川です。

私は大学を卒業した後、家業である遠洋まぐろはえ縄漁業を引き継ぐため、父親のまぐろ漁船に乗船しました。父親の下で厳しい3年間の修行の後、その跡を継ぎ、ペルー沖を主な漁場として、20年間遠洋まぐろはえ縄漁業を経営してきました。しかし、近年の燃油の高騰や魚価低迷、漁獲量の減少などにより経営が悪化してきました。そこで、現在は遠洋まぐろはえ縄漁業を辞め、並行してやっていた刺網（イセエビ）をメインとしていますが、9～12月までの季節漁業なため、4年前からはケンケン漁（カツオ等）も始めています。まだケンケン漁は駆け出しですが、それなりの手応えは感じています。また、6～8月には棒受網漁業に従事することで、その収入を漁業経営の足しにしています。



依然として、漁業を取り巻く環境は厳しいです。私が漁業転換した時よりも今の方がより厳しくなっていると思われます。漁業士として、厳しい時代を生き抜けるよう、後輩漁業者への指導等にも頑張っていこうと思います。

## 平成24年度漁業士関係担当者一覧

県庁水産振興課企画流通班  
(073-441-3000)

森班長、田中主査

海草振興局企画産業課  
(073-441-3385)

嶋本主査、井川技師

有田振興局企画産業課  
(0737-64-1286)

木下主査、南副主査

日高振興局企画産業課  
(0738-24-2946)

藤井主任、山田副主査

西牟婁振興局企画産業課  
(0739-26-7910)

山内主任、伊勢田技師

東牟婁振興局企画産業課  
(0735-21-9604)

奥山主任、横濱主査、吉村副主査

何かございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。